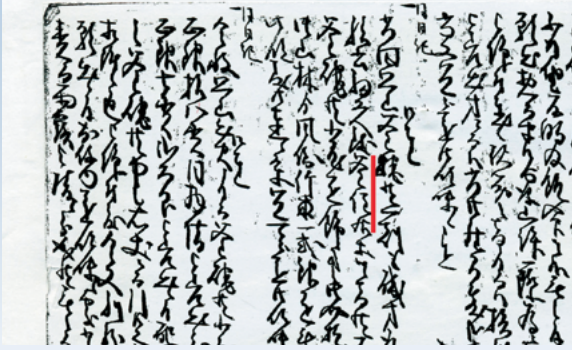
歴史の行間

有田の災害と復興

～『文政の大火』を中心に～



『皿山代官旧記覚書』に見える「釜住居」の文字（赤線部）（佐賀県立図書館蔵）

昨年の東日本大震災では多くの人が亡くなり、また未だに行方がわからない方が多数いるという悲惨なものでした。一年以上が経過してもなお、日本人の心に深い傷を残していますが、最近になって、この「３・１１」を振り返る書物も目に付くようになりました。記録を残すことでこの事実、災害を後世に伝えようということだと思いますが、この有田皿山にも 200 年ほど前の災害が今に語り継がれています。

有田皿山は平成 28 年に創業 400 年を迎えます。この間、多くの先人がこの地に生まれ、生きてきました。その一人一人の歴史の積み重ねが、400 年の歴史でもあると思います。この歴史の中で、有田に未曽有の災害をもたらしたのが、「文政の大火」と言われるものです。これは九州地方を襲った台風によるもので、この年が戊子年であったことから「子（ね）年の台風」と呼ばれています。

文政 11 年（1828）８月９日、新暦でいうと９月 18 日の夜 10 時ごろ、南東の方から大風が吹き出し、岩谷川内で出火した炎は、またたく間に谷筋をかけのぼり、白川と泉山の一部を残して、ほぼ焼失したと言われます。この様子を記した『浮世の有様一』には次のようにあります。

「安政六年松浦郡有田郷図」（一部）（佐賀県立図書館蔵）の中の登り窯

「風は強く吹き立ち雨は頻りに降り、火は風に任せて飛びまわり、天より火の降りし如くなり。地震は天地をも覆さんばかりなり。川は洪水となり退き行く方もなかりけり」

現在のように気象予報などない時代ですから、台風と火事、さらには洪水までもが一度に襲いかかり、突然の災害に山間の地形を逃げまどう人々の様子が読み取れます。

さらに松浦山人千々舎馬亭が記したとされる『文政時津風騒動記』には、大庄屋某の親子が一度は逃げ出したものの、公用書類などを持ち出すために立ちもどり絶命したことや、札の辻近くの醤油屋某は蔵の中に逃げ込み、迫りくる熱気を醤油壺の中で凌いでいたが、次第に煮えたぎって七転八倒し亡くなったことなどが記されています。

翌日、風雨が収まり、前夜命からがら近辺に逃げ去っていた人々が戻って来たときには、広々とした焼け野が原になっていたとあります。

また、『皿山代官旧記覚書』には「数千人の絵書、細工人釜住居等致し」とあり、住居を失った人々は登り窯を仮住まいとして生活していたことが記されています。

佐賀藩全体も大変な被害を蒙ったのですが、有田皿山に対しては御売米を届けたり、あるいは御国産第一の皿山を復興させるため、伊万里津の商人を通して紀州・筑前の陶器商人たちへ 5000 両の入銀（手付金）を頼んでいます。もちろん、これだけではなく、親類や知り合いの人々も食糧や衣類などを牛馬にのせ駆け付けたとあり、あらゆる方面から救いの手が差し伸べられています。

佐賀県立図書館所蔵の安政６年（1859）『松浦郡有田郷図』という絵図は、文政の大火から 30 年後、見事に復興した有田皿山の姿を描き出しています。

東北地方の復興は遅々として進まないように見えますが、いつの日か人々の心に平穏が戻り、町も元の姿を取り戻される事を祈っています。　（尾崎　葉子）

季刊 皿山 No.94 夏 2012

有田町歴史民俗資料館・館報

川の中から有田の歴史を探ろう！！

２年前からアリタ・ガイド・クラブとの協働で始まった「150 年前の有田皿山ば　歩こう隊」ですが、３年目の最終年度事業は、この素晴らしい有田の歴史を子どもたちに伝えていこうと考え、取り組んでいます。その一環として、町中を流れる川の中に残る歴史、あるいは川から見える歴史を再発見しようという活動を計画しています。今では川の中も随分ときれいになりましたが、以前は焼き損じた焼物のかけらを川に捨てたり、あるいは絵の具なども流したりしていました。

その名残が、今も川の中に静かに残っている陶片であったり、川から上を見上げると、各家から直接、川に下りて洗いものなどをする際の階段やとびらです。また、橋がなかったころ、川のなかに大きな石を置いて、その石づたいに川を渡った通称「ぴょんぴょん橋」などが、今も残っています。

川底からは江戸時代の輸出用磁器であった「ケンディ」の破片が出てきたこともあります。そういう新しい発見もあるかもしれません。

夏休みに、親子で川探検に参加してみませんか？夏休み前には各学校にチラシを配布したいと思いますが、詳しくは有田町歴史民俗資料館（電話４３－２６７８）までお問い合わせください。

日程：平成 24 年　７月３０日（月）
～８月３日（金）の間

古文書教室研修旅行

金立にある「葉隠発祥の碑」の下で記念撮影

前日の豪雨から一転、好天に恵まれた４月12 日（木）、恒例となった古文書教室研修旅行が行われました。参加者は初級・中級の受講生の 20 名。今回は「佐賀の偉人を学ぶ」をテーマに、佐賀市川副町にある佐野常民記念館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館へと向かいました。

佐野常民記念館では、ボランティアガイドの江口義己さん（前川副町長）により、世界遺産暫定リストに記載された「九州・山口の近代化産業遺産群」の三重津海軍所跡とその関連資産について詳しい説明を受けました。その後、佐野常民の功績などを映像で見学しました。

佐賀県立佐賀城本丸歴史館は、たくさんのボランティアガイドが活躍されていますが、ガイドの武田さんにより、随所に有田のことを盛り込んだ面白い案内に、興味深く見学することができました。

その後金立にある「葉隠発祥の碑」を訪れ、近くにある島義勇の墓碑も見学しました。裏面の没年をみると、奇しくも当日４月 12 日が命日であることを知り、偶然に驚きながらの実り多い研修旅行となりました。

新指定 有田町の文化財

有田町教育委員会は、平成24年４月19日付けで左記の文化財を指定しました。

需要文化財（歴史資料）
陶山神社の磁器製玉垣　一式（有田町大樽）

大樽の陶山神社には、各地区からのさまざまな寄進物が境内を埋めています。中でも、有田らしさを象徴する磁器製の鳥居や狛犬などは、観光雑誌などでも度々紹介されよく知られています。しかし、今回重要文化財となった磁器製の玉垣については、意外に知らない方も多いのではないでしょうか。

この玉垣は、本殿を囲う高欄の内側に沿って、正面の階段を挟んで、左右対称に設置されています。左右ともに長さ約310 cm、高さ78 cmで、柱や桁、擬宝珠などの磁器製の部品を組み合わせてL字形に配置されています。そして、10本の柱のそれぞれには、「奉寄進　本幸平山　弘化三年（一八四六）丙午九月吉日」銘や寄進した窯焼など27人の名前が染付で記され、玉垣全体を細密で瀟洒な蔓草文で埋め尽くしています。また、こうした描画の秀逸さに加え、角物細工の技法をふんだんに用いるなど、江戸後期の有田の技術水準の高さが窺われ、玉垣としては、他には類例のない大変珍しいものです。

この玉垣は、普段参拝する拝殿裏の本殿にあり、拝殿の正面からは見えません。そのため気づかない方も多いのですが、拝殿の横を奥へと進むと、本殿に設置されたこの磁器製玉垣を目にすることができます。一度、ご覧になってはいかがでしょうか。

歴史と文化をつなぐ
～有田内山地区の景観を守るために～

有田の歴史と文化がつくりだした有田内山の町並みや景観を保存・活用していくために、平成元年に「有田町都市景観条例」が制定されました。その後、平成三年に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、住民の皆さまのご理解とご協力により、国や県の助成による伝統的建造物等の保存・修理事業を進め、有田らしい町並みが徐々に整備されています。

事業に着手して二〇年余りが経ち、地区内外にお住まいの方々の世代交代が進んでいます。今回は、多くの町民の皆さまにこの制度に関することを再認識していただくために、改めてお知らせいたします。

※有田内山地区について

有田内山の伝統的建造物は、幕末から明治前期にかけて基本的なものが形成されました。その後、明治後期から昭和初期にかけての洋風様式を取り入れた、新たな装いの町屋も建ち始め、昭和初期の道路拡張によって現在の町並みがつくられてきました。

これらの伝統的建造物や環境物件は、有田内山を特色づける大切な役割を果たし、歴史の中で長い時間をかけてはぐくまれ、時代を象徴する貴重な建物等として指定されています。しかし、いくつかの伝統的建造物だけでは町並みとは呼べません。点と点が連続したとき、本当の意味で町並みがつくられていくのです。

歴史的な景観を守るために規制や基準があります

有田内山地区には、条例に基づいて、三つの区域に分けられ、いろいろな取り決めがあります。

●歴史的景観形成地域（有田らしい歴史的景観が残る地域）

建物などの工事をするときは、歴史的景観を守るために基準が設けられています。教育委員会へ必ず事前に届け出て、指導、助言を受けてください。

●伝統的建造物群保存地区

（歴史的景観形成地域の中でも、特に国の選定を受けた重要な地区）

建物などの工事、宅地の造成、木竹の伐採、看板の設置などは、町と教育委員会の許可が必要です。必ず事前に申請してください。助成事業の対象に該当する場合は経費の一部が助成されます。

●風致保全地区

（歴史的景観形成地域の周囲の山々で、自然景観を保護するための地区）

造成や木竹の伐採や建物などの工事をするときは、教育委員会へ必ず事前に届け出て、指導、助言を受けてください。

よくあるご質問

Q1　どんなときに届け出が必要ですか？

A1　新築や増改築、看板の設置、大規模な修繕、模様替え、外観の色彩を変更するときなどに届け出や申請が必要です。
許可が出るまでに時間がかかることがありますので、計画があるときは、早めに相談してください。

Q2　雨漏りを急いで修理したいのですが、助成はいつでも受けられるのですか？

A2　助成を受けて修理する場合は、手順に沿って事務手続きを行う必要があります。修理する前の年の７月上旬～８月下旬に修理計画書等を提出してください。
有田町都市景観審議会で助成事業採択の優先順位を決めます。国などの予算の都合により、年間数件が助成されますので、修理を希望する年にできない場合があります。

Q3　キッチンを使いやすく改修したいのですが、制約がありますか？

A3　外観に支障がない限り制約はありません。内部の改修費用は、助成事業の対象外となっています。

Q4　助成事業の基準を詳しく知りたいのですが。

A4　修理等に関する費用の全てが対象ではありません。全ての助成事業には、個人負担が伴うことになっており、修理や修景の基準に該当するものが対象です。詳しい基準や助成の内容等はお問い合わせください。

修理前

修理後

写真は、平成23年度に修理事業を実施された岩谷川内の一誠陶器所有の建物です。

屋根・外壁・構造補強の補修が主な工事。町並みとの調和が好評です。

詳しくは、有田町教育委員会
文化財課まで、お尋ねください
TEL 43―2899
FAX 43―2802

公式ホームページ、開設！！

平成 24 年 3 月 30 日に、長年の懸案であった有田町歴史民俗資料館の公式ホームページを公開しました。有田町教育委員会が管轄する「有田町歴史民俗資料館東館・西館」「有田焼参考館」「有田町出土文化財管理センター」「有田陶磁美術館」の各施設を詳しく紹介しています。

他にも、有田内山伝統的建造物群保存地区について、町内にある窯跡、指定文化財なども解説しており、盛りだくさんの内容となっています。

このホームページは、有田町文化財課の職員による手作りのホームページとなっており、課員全員でアイデアを出しています。例えば、トップページの写真では、資料館周辺の豊かな自然の、四季折々の姿を紹介しています。

今後、コンテンツを追加していき、より充実した内容のホームページを皆さんに提供していきたいと思います。どんどんアクセスしてください。

URL はこちら
http://rekishi.town.arita.saga.jp

●新刊案内●

御道具山があったと伝えられている岩谷川内山に位置する岩中窯跡の発掘調査報告書です。1999 年の発掘調査では、登り窯は発見されませんでしたが、製品の失敗品の捨て場である物原が発見され、17 世紀の磁器製品や窯道具などが大量に出土しました。岩谷川内山は、内山地区の中で最も早く成立した窯場の一つで、本窯跡でも初期伊万里の碗や皿が出土しています。そして、海外輸出が本格化する 1660 年代頃に廃窯になったと推定されます。

書名：岩中窯跡
―町内古窯跡発掘調査報告書―
販売場所：
有田町歴史民俗資料館
価格：2,000 円
装丁：A4 サイズ
57 ページ

韓国・金海市からの訪問団

5 月 2 日～ 3 日にかけて、韓国・金海市から社団法人金海陶芸協会の甘鐘守さんほか 6 名が有田町を訪問されました。

金海市は釜山市に隣接する人口 50 万人の都市です。現在、金海市では粉青沙器 (プンチョンサギ)」という、青磁から白磁への過渡期である 15~16 世紀に使われていた生活陶磁器を今も生産しています。

韓国最大の粉青沙器陶芸村のある金海市では毎年 10 月に祭りが開催され、多くの買い物客で賑わっていますが、今回、陶芸協会と金海市の観光政策担当者が有田の陶器市を見学に来町されました。

報恩寺境内の百婆仙法塔に参詣（金梅市よりの訪問団）

この金海市は、有田焼創業期のもう一つのリーダーであった百婆仙、深海氏一族の出身地であるとされています。一行はまず、稗古場・報恩寺境内にある百婆仙の法塔を訪れ、金海市名産の将軍茶と、四角い餅を供えて先祖の苦労をしのばれました。ここでは報恩寺の加藤仙乗住職から、百婆仙の功績や由緒などについて説明を受け、さらに後方の観音山にある「祭礼廟」にも足を運ばれました。

昨年 16 回目を迎えた「金海粉青陶磁器祭り」は規模こそ有田陶器市には及びませんが、焼き物の他に、韓国の伝統芸能などの披露などもあり、賑やかなものです。

創業 400 年を迎えるもう一つの有田焼の歴史でもある韓国・金海市との交流も、これから新たな一歩を踏み出したともいえる訪問団一行の有田訪問でした。

季　刊　『皿　山』
通巻 94 号（平成 24 年 6 月 1 日）
編集・発行　有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山 1 丁目 4-1
☎ 0955-43-2678　FAX0955-43-4185
URL：http://rekishi.town.arita.saga.jp